リスク対策.com
危機管理とBCPの専門メディア

リスク対策.COM 連載

企業向け危機管理訓練シナリオ

クルーズ船の集団感染疑い×6 年後の問い×あなたの会社の予兆対応は何時間で動けますか

～「もしや」と感じた、あの感覚は残っていますか～

今回の背景ニュース

2026 年 5 月上旬、南大西洋を航行中のクルーズ船「MV Hondius 号」（乗客・乗員 147 名、日本人 1 名を含む）でハンタウイルス感染症の集団感染疑いが報じられた。WHO は「容易に伝播するウイルスではない」とし、厚生労働省も 5 月 6 日「ヒト-ヒト感染で感染拡大する可能性は低い」とする評価を公表した。

＊2020 年のあの感覚は、あなたの会社の中に、どんな形で残っていますか？

1. ニュースの第一報で「もしや」と感じた朝

その感覚は、組織のどこに残りましたか。

2.セルフチェック：あなたの会社の現状は？

[ ] 感染症 BCP があり、直近 1 年以内に内容を確認している
[ ] 海外の感染症情報を、誰がどの頻度で確認するか決めている
[ ] 「対応開始」「継続フォロー」「対象外」を判断する基準がある
[ ] ニュースを見て「もしや」と感じた時、記録する仕組みがある
[ ] 当時（2020 年～2022 年）の対応経験を、文書として残している
[ ] AI ツールを使って毎朝の情報収集をしたことがある

❶今回のシナリオ：報道を見ながら、判断を重ねる 18 日間

「ニュース見ました？」「クルーズ船と聞いて、ちょっと身構えましたね」「うちは関係ない話ですよね？」立て続けに届く声に対し、何を優先し、どう動くかを考える訓練です。

【状況設定】

- 時点：朝のニュースで集団感染疑いが報じられた当日
- 立場：総務・管理部門の責任者（BCP 担当兼務）
- 状況：船は海外で停泊中、政府は「拡大可能性は低い」と発表

【状況付与：報道を見ながらの 18 日間】

時点	何が起きたのか
当日	クルーズ船で集団感染の疑い、3 名死亡。厚労省「国内拡大の可能性は低い」と発表
2 日後	ウイルスはハンタウイルスと判明。げっ歯類の排泄物が媒介、ヒト-ヒト感染は限定的との情報
6 日後	受け入れ国で下船開始の報道。各国の検疫対応が報じられる
18 日後	別の海外ニュースで「未知の感染症の集団発生」が報じられる（仮想）

❷実践訓練：2 日後、何を確認するか

質問 1

2 日後、ウイルスはハンタウイルスと判明し、ヒト-ヒト感染は限定的との情報を得ました。朝のニュースの第一報を聞いた時、「もしや」と感じた。しかし 2 日後には、感染経路が別のものだと分かりました。あなたは総務・管理部門の責任者（BCP 担当兼務）として、ここで何を確認しますか。

＜下記より該当するものを選んでください。また、理由も考えてみてください＞

☐ 既存の感染症 BCP を取り出して内容を確認する
☐ 厚生労働省・WHO の一次情報で、ウイルスと感染経路を確認する
☐ 海外渡航中の社員・出張予定者への注意喚起を検討する
☐ 取引先・業界団体の動向を確認する
☐ 「拡大可能性は低い」と確認できたので、特段の対応はしない
☐ その他：

記述欄（理由・気づいたこと）

❸実践訓練：18 日後の問いに、どう答えるか

質問 2

18 日後、別の感染症のニュースを見て、経営者からこう問われました。
「この前もクルーズ船のニュースがあったな。今回のもまた違うウイルスらしいが、うちは大丈夫か。当時の経験、活かせるよな？」あなたは、どう答えますか？

＜下記より該当するものを選んでください。また、理由も考えてみてください＞

☐ 当時の経験は記録され、現在も活用できる形になっている
☐ 当時の経験は文書化されたが、その後の変化を反映していない
☐ 当時の対応は記憶に残っているが、文書としては残っていない
☐ 当時の経験者が、現在は社内にいない・部署が変わっている
☐ 正直、把握していない
☐ その他：

記述欄（理由・気づいたこと）

＜この訓練を通じて、自社の「備え不備」として気づいたことがあれば記入してください＞

❹振り返り：事象が起きる前の備え――その盲点

- □ 事象が起きていない段階で、何を確認するか。これは普段ほとんど問われない問いです。事象が起きてから動く訓練は数多くありますが、起きる前の動きについては、訓練の機会が少ないのが実態です。
- □ この訓練で問いたかったのは、対応の正しさではありません。ニュースの第一報で感じた「もしや」を、組織がどう扱える形にしているかを、自分たちで気づいているかどうかです。

＜以下の 4 点を確認してください。＞

【点検表】自社の判断の仕組みは整っていますか

現状点検項目	できている	要対応
感染症 BCP があり、直近 1 年以内に内容を確認している	□	□
海外の感染症情報を、誰がどの頻度で確認するか決めている	□	□
「対応開始」「継続フォロー」「対象外」を判断する基準がある	□	□
当時の経験を知る人と、新しい担当者の引き継ぎができている	□	□

明日からできる３つのこと

① 第一報で感じた「もしや」を、記録する仕組みを作る。
→ 1 行のメモで構いません。気づきが残れば、次の予兆段階で同じ場所に戻れます。

② 情報源を一つ、明文化する
→ 全部見る必要はありません。誰が、どこを、どの頻度で見るか決めるだけ。

③ AI で情報を集める仕組みを、今日中に作る。
→ 毎朝のニュース要約を、AI が届ける状態を作る。次ページのプロンプトをご活用ください。

AI への指示文（プロンプト）

以下のプロンプトを CHATGPT、CLAUDE、GEMINI などに毎朝コピー＆貼付し、
「自社視点の朝刊」を自動生成してください。

```
――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――
あなたは企業の危機管理担当者をサポートするアシスタントです。
以下の情報源から、過去 24 時間以内に報じられた以下のテーマに
関するニュースを収集し、要約してください。

【テーマ】
・感染症（国内・海外）
・地政学リスク（特定地域の緊張、外交、軍事）
・自然災害（地震、気象、火山）
・サイバー攻撃（国内企業の被害、注意喚起）
・サプライチェーン障害（物流、原材料、規制）

【情報源（参考）】
・厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/
・国立健康危機管理研究機構 https://id-info.jihs.go.jp/
・WHO Disease Outbreak News https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news
・気象庁 https://www.jma.go.jp/
・内閣府防災 https://www.bousai.go.jp/
・IPA(情報処理推進機構) https://www.ipa.go.jp/security/
・JPCERT/CC https://www.jpcert.or.jp/
・外務省海外安全 https://www.anzen.mofa.go.jp/

【出力形式】
1．テーマごとに 3 件まで
2．各ニュースの要約は 2～3 行
3．情報源のリンクを必ず付記
4．自社業務との関連性を「高・中・低」で評価
――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――
```

完璧な情報収集ではなく、「誰かが見ている状態」を作ることが、第一歩になります。

❺自社での実践可能性を検証

現状点検チェック

- ☑ 感染症 BCP を最新の事業環境に合わせて見直すことができる
- ☑ 海外感染症情報を定期的に確認する担当者を決められる
- ☑ 「対応開始」「継続フォロー」「対象外」の判断基準を作成できる
- ☑ 過去の感染症対応経験者にヒアリングできる
- ☑ 経営層に予兆段階の備えの必要性を説明できる
- ☑ AI プロンプトを活用した情報収集を社内で運用できる

明日から開始する改善アクション

1.「もしや」を記録する仕組み：

_____

2. 情報源の明文化：

_____

3. AI による情報収集の運用：

_____

経営層への提案事項

予兆段階の備えとして実施すべき対策を 1 つ挙げてください：

提案内容：_____

投資規模：_____

効果・ROI：_____

リスク対策.com
危機管理とBCPの専門メディア

作成：八重澤晴信、企画：リスク対策.com

著作権表記：「© 2026 八重澤晴信・リスク対策.com 無断転載・複製を禁じます」